

ニツ鳥居

これらの二つの鳥居は、実相院から壇上伽藍の仏舍利塔までの道のりを3分の1ほど行ったところを示す120町石という町石道沿いの道標の近くに立っています。伝説によると、もとの木の鳥居は819年に高野山の開祖である空海という僧（諡号 弘法大師、774-835）が開山にあたって壇上伽藍を創建した際にこの場所に建てられました。空海は、女神である丹生都比売大神とその息子である高野御子大神（狩場明神）を祀ってこれらの鳥居を建てました。

1000年以上にわたって、参詣者は高野山に登り始める前に丹生都比売神社で守護神に参拝するためこれらの鳥居をくぐってきました。晴れた日には、何世紀も昔からほとんど変わらない天野の里の水田を一望する景色を眺めることができます。